ポータルサイト http://www.town.shiwa.iwate.jp/

しわネット

No.727
2007
9

平成19年9月12日発行
岩手県●紫波町
〒028-3390
紫波町日詰字西裏23-1
印刷・川嶋印刷株式会社

祭りでほてった顔をなでる長月の風

赤石さんの秋祭り（通称日詰まつり）は、8月31日から9月2日までの3日間行われました。橋本組、一番組、上組、下組による4台の山車は、太鼓の音を響かせながら日詰や桜町、紫波中央駅前を練り歩き、夜には出店が立ち並ぶ日詰商店街をパレード、沿道に詰めかけた大勢の目を楽しませました。

特集 一緒に考えようまちづくりのこれから 豊かな心を育む 03
子どもに学習習慣を身につけさせよう！ 06
公民連携で日詰西開発その可能性は？東洋大学が調査結果を報告 10
折り込み別冊『紫波町PPP可能性調査報告書』《概要版》
ツールド・とうほく　岩手ステージ大会 12
環のくに「さまざまな環境に関する取り組み」 16
元気はつらつ健康メモ「子どもと睡眠」 17
紫波フルーツの里まつり 会場案内 20

R100
古紙パルプ配合率100％再生紙を使用

ふれあいフェスタ2007

この事業は、健常者と障害者が文化活動を通じてふれあうことで、障害者に対する正しい知識を普及し、障害者の自立と社会参加を促進するためのものです。お気軽にお出かけください。

日　時

9月24日(月)
午前9時30分～午後4時

会　場

サン・ビレッジ紫波

内　容

9:30～	開館・ふれあいバザー開始
10:00～	アトラクション(虹の保育園)
10:40～	ステージ発表
12:00～	お楽しみ大抽選会(1回目)
13:00～	餅まき
13:20～	ふれあい太鼓 佐比内保育所による金山太鼓 十日市こどもさんさ
14:00～	ふれあいコンサート 「Missing Link」
15:00～	お楽しみ大抽選会
15:00～	焚き出し実演 (おにぎり先着40個配布)

「Missing Link」プロフィール

メンバー全員がリードヴォーカル&ラップを担当する、4人組ガールズグループ。2004年、ケツメイシやDef Techなどのサウンドプロデュースを手がけるYANAGIMANに見出され、活動をスタート。2005年5月、着うた・着メロが計10万以上ダウンロードされ話題に。2007年2月シングル「ツナガルキモチ」でデビュー。

○問合せ　紫波町ふれあいフェスタ2007実行委員会　☎672-3258

町長からのメッセージ

敬老会

九月十七日の敬老の日に先だち、町内各地で敬老会が開催されています。

出席して感じることは、年々出席者が若返っているように見受けられることです。ある会場では、地区の社会福祉協議会長が、「実年齢に七掛けで計算するのが妥当だ」とあいさつされていましたが、そのとおりだと思います。

先輩の皆様は、老後の平穏な暮らしを願ってこれまでの苦労を乗り越えてこられたと思いますが、最近の新聞やテレビからは、以前では考えられなかった事件や痛ましい事故が毎日のように報道されております。複雑になりすぎた社会の「落とし子」なのでしょうか。

また、医療制度改革や来年度から後期高齢者医療制度の実施が予定されており、町では、国の制度を見ながら「環境と福祉の町」にふさわしい事業として、「いこいの家」「介護用品貸付制度」「米寿の祝い金」「高齢者訪問」など、独自の事業を取り入れながら皆様の今までのご苦労に報いて参ります。

以前、長寿健康課で実施したアンケート調査で、町民が健康のために重要ととらえている上位三要素は、「食」「運動」「癒し」でした。この調査結果を健康指導になお一層反映させるよう、担当部署で普及活動をして参ります。

皆様には、健康で自分の趣味や学ぶことを忘れることなく、「愛される」「頼られる」人生の先達として、長生きしてくださることを念願いたしております。

藤原　孝

「元気なコミュニティ100」を募集します

地域の活性化に取り組む町内会などの各種団体・組織を推薦してください。県内100団体(町内3団体)を選考し「選定証」を交付します。

推薦・問合せ　9月28日(金)まで
総務課　協働支援室　☎672-2111　内線3141

シリーズ特集 第5弾

一緒に考えよう！
まちづくりのこれから

町では、学校の授業だけではなく、読書や音楽などを通して、子どもたちの感性を育てる教育をすすめています。学校と保護者、地域が連携して情緒豊かな環境をつくり、さまざまな活動を通して、子どもたちの感性を伸ばします。今回は、上平沢小学校の子どもたちと一緒に、読み聞かせとコンサートに参加してみました。

上平沢小学校のみなさん

豊かな心を育む

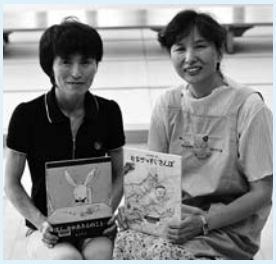
～読み聞かせと「みどりの森コンサート」～

町西部、滝名川ほとりの豊かな田園風景の中に建つ、町立上平沢小学校（花篭和博校長・児童105人）。同校では月一回、ボランティアによる絵本の読み聞かせが行われています。また、7月には「みどりの森コンサート」も開催されました。どちらも、子どもたちが心待ちにしている活動です。その様子をご紹介します。

読み終えた本に
集まる子どもたち

聞き逃すまいとみんな静かに注目します

おしえてくれた人



上平沢小図書ボランティア
青山　秀子 さん

アシスタント・コーディネーター
高橋　洋子 さん

みんなの感想

浅沼瑞希さん　自分で読むより、内容がわかりやすいです。2冊目の絵本で、男の子が動物たちといろんな話をしていたのがおもしろかったです。

鷹木　愛さん　(アシスタント・コーディネーターの方に)読んでもらうと、感情がこもっていて、とてもわかりやすいです。

近江稜輔くん　今日の絵本は、2冊とも男の子が主人公で、身近な感じがしておもしろかったです。

読み聞かせの参加は自主的に

給食時間が終わった後の昼休み、学校内のホールに次々と子どもたちが集まってきました。これから、楽しみに待っていた「絵本の読み聞かせ」の時間です。まだ小さい一、二年生は前列に、そして三年生以上の子どもたちは自分でイスを運び、それぞれ座って始まりを待っています。

読み聞かせは、二年前から、月一回行われています。参加は児童の自主性にまかせています。この日は一年生から六年生まで、合わせて四十人ほどが集まりました。

読み聞かせをしてくれたのは、町内小学校の図書館整備などを担当している、アシスタント・コーディネーターの高橋洋子さん。この日は、「おなかのすくさんぽ」「ぼく、おかあさんのこと…」の二冊を読んでくれました。

最初はちょっとざわざわしていた子どもたちですが、高橋さんが絵本を開き、ゆっくりと読み始めると、すーっと静かになって、全員が注目。とくに一、二年生は、身を乗り出すようにして聞き入っていました。

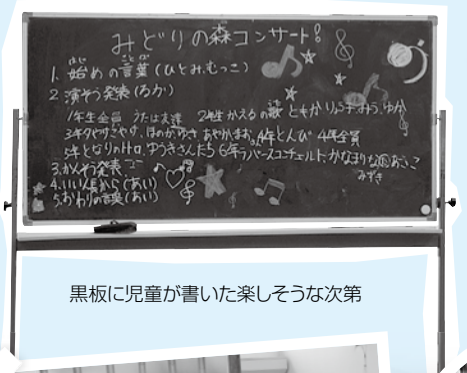
高橋さんが読む絵本の主人公のセリフや表情に、笑ったり、共感したり、不思議がったりする子どもたち。みんなすっかり、本の世界に入り込んでいるようでした。

読み聞かせは、十分ほどで終了。子どもたちはイスを片付けて解散し、残りの休み時間は運動したり、図書室で本を読んだり、思い思いに過ごしていました。

本の楽しみを知るきっかけづくり

高橋さんは読み聞かせを終えた後、残った子どもたちに本を自由に開かせたり、内容について説明したりしていました。

「読み聞かせは、本の楽しさを知ってもらうきっかけです。毎回本を選ぶのは大変ですが、まだあまり知られていないもので、子どもたちが興味を持ってくれる本



黒板に児童が書いた楽しそうな次第

木のぬくもりが感じらる校舎で、元気いっぱいに歌や演奏を披露する子どもたち。毎回、自分たちから希望して出演します。

を選んでいます」と高橋さん。

この読み聞かせは、高橋さんのほか、上平沢小学校の保護者などを含めた四人が協力・サポートし、実施されています。メンバーの一人、青山秀子さんは、読み聞かせの様子をビデオに収録。学校とPTA、ボランティアが一緒になって、子どもたちの情操を育てる環境を整えているのです。

月一回のこの時間を楽しみにしている子どもも多く、次回の開催が待ち遠しい様子でした。

子どもたちが運営するみどりの森コンサート

七月三日は、校内で「みどりの森コンサート」が開催されました。

このコンサートは毎年行われ、企画・進行は、四～六年生六人で構成される「みどりの森委員会」が担当しています。参加は、強制ではなく、希望者を募る形式。学年やグループ、あるいは一人でも参加でき、それぞれが歌や楽器演奏などを披露します。

コンサートは、委員会の司会進行で始まりました。始めの言葉のあと、一年生全員による可愛らしい合唱「うたは友達」、次は二年生の四人グループによる「かえるの歌」がホールに響きます。三年生は、四人グループで「夕やけこやけ」の合唱。四年生は全員参加で「とんび」の演奏です。五年生は、笛やピアニカ、ピアノ、木琴で「となりのトトロ」の演奏。六年生は三人で演奏する「ラバーズコンチェルト」を披露しました。

演奏が終わった後、子どもたちから感想が発表されました。最後に、委員長からのあいさつと、終わりの言葉でコンサートは締めくくられました。

それぞれの演奏を終えた子どもたちの、満足そうな笑顔が印象的でした。コンサートの開催準備や演奏を通じ、子どもたちの自立性と協調性がはぐくまれ、健やかに成長している姿を実感できました。

町では、今後も学校や地域と協力し、子どもたちの感性を豊かにする環境づくりと、よりよい情操教育をすすめていきます。

子どもに学習習慣を身につけさせよう！

町では、文部科学省から「学力向上拠点形成事業」の指定を受け、平成十七年度から本年度までの三年間、小中学生に確かな学力を身につけさせるために次のような取り組みをしています。

学校で実施していること

●基礎・基本を身につける「よく分かる授業」

学校公開研究会（指定校）、小中学校相互の授業交流、授業研究会などにより教員の授業力を高めています。

●きめ細かな指導

大規模校では、少人数指導や複数の教師が協力して指導するティームティーチングを、派遣校では、学習や生活を支援する大学生（岩手大学で教員を志望する学生ボランティア）の協力を得ています。

●学力検査の分析と対策

全国標準学力検査（小二～中三）
学習定着度状況調査（小四・五、中一～三）
全国学力・学習状況調査（小六・中三）
これらの結果を分析し、対策を講じています。

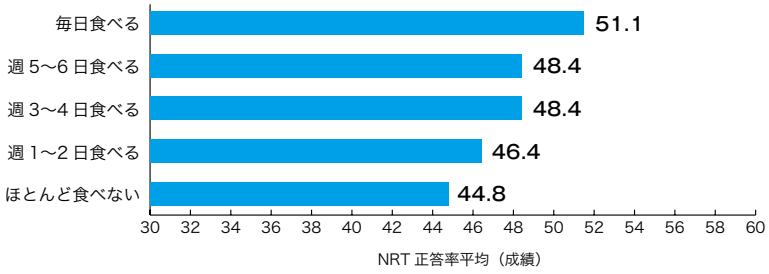
町では、子どもたちが家庭に帰ってからの生活実態を把握するため、今年5月に小学校2年生から中学校3年生までの全児童生徒(小学生1,703人、中学生1,159人）を対象に「家での生活アンケート」を実施しました。

調査方法は、小学校4年生から中学校３年生までは各教室で用紙を配りその場で記入してもらい、小学校2、3年生は家庭にアンケート用紙を持ち帰り、保護者の皆さんに記入してもらったものを後日回収し集計しました。

また、このアンケート結果を、例年実施している標準学力検査（ＮＲＴ）と関連づけてみましたので、対策を必要とする内容や、最近の傾向として皆さんに知っていただきたい内容についてお伝えします。

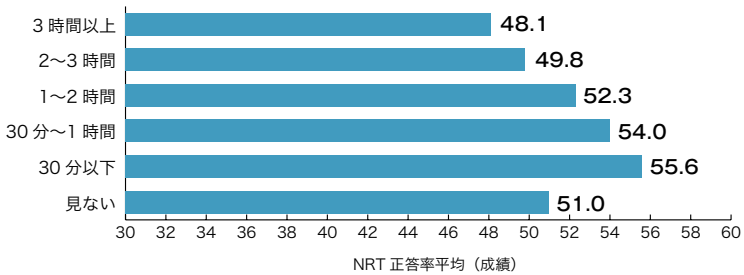
3. 朝食の摂取と学力の関係（中学校３年生）

・朝食をほとんど取らない生徒がもっとも成績が悪く、朝食を取る回数が多くなるに従って成績も上がっている。
・朝食は毎日きちんと取らせましょう。



4. テレビ視聴時間と学力の関係（中学校３年生）

・テレビ視聴時間が多くなると成績が下がり、視聴時間が30分以下の生徒がもっとも成績がよい。
・テレビの視聴時間は短時間で切り上げさせましょう。



町から家庭に呼びかけていること

●読書を推進

国語力の基礎を養うため、司書教諭や図書コーディネーターを配置し、朝読書、読書感想文コンクールなどにより読書を推進しています。

●英語によるコミュニケーション能力を育成

小学校三年生から六年生まで年三十時間を英語活動にあて、段階的にコミュニケーション能力を育成。外国人英語指導助手が年間十時間程度指導しています。

また、米国と豪州に中学生を派遣し、相手国の小中学生と交流することで国際理解を深めています。

●生活習慣を身につけさせよう

「早寝、早起き、朝ご飯」。十分な睡眠と、朝食、会話をしながらの食事が大切。テレビやゲームは時間を決めて守らせましょう。

●毎日の計画的な学習習慣をつけさせよう

毎日、家庭で学習させましょう。机周りを整頓させるなど、学習に集中できる環境づくりも大切です。

●前向きな気持ちを支援しましょう

家族や親に認められているという気持ちを持たせましょう。やればできるという気持ちや責任感を持たせるようにしましょう。

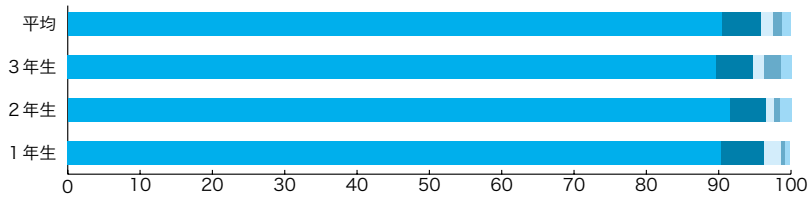
●学校と連携し、力を合わせて子どもを育てましょう

気になることは、遠慮せずに学校や教育委員会に相談しましょう。

家庭の生活アンケート

1. 朝食の摂取（中学生）

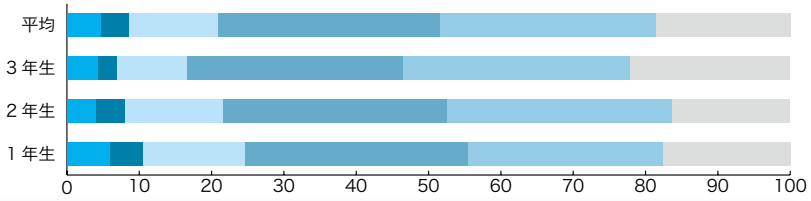
・学年を通じて毎日朝食を取っていない生徒が約10%いる。
・ほとんど朝食を取らない生徒が平均で1.3%いる。



	1年生	2年生	3年生	平　均
毎日食べる	90.3	91.5	89.6	90.4
週5～6日食べる	5.9	5.1	5.1	5.4
週3～4日食べる	2.4	1.1	1.5	1.7
週1～2日食べる	0.5	0.8	2.4	1.2
ほとんど食べない	0.8	1.6	1.5	1.3

2. 休日以外でのテレビの視聴時間（中学生）

・ほぼ半数の生徒が2時間以上テレビを見ている。
・学年が進むにつれて、テレビの視聴時間が増えている。



	1年生	2年生	3年生	平　均
見ない	5.9	4.0	4.2	4.7
30分以下	4.6	4.0	2.7	3.8
30分～1時間	14.1	13.6	9.6	12.4
1～2時間	30.8	30.9	29.9	30.5
2～3時間	27.0	31.2	31.4	29.9
3時間以上	17.6	16.3	22.2	18.7

町の教育方針は、「子ども一人ひとりに光をあて、たくましく生きていくための確かな力をつける」ことを基本にしています。つまり、子ども一人ひとりの多様な個性を大切に伸ばしながら、共に生きる心をはぐくみ、基礎・基本の確実な習得や自ら考える力など「生きる力」の育成を目指しています。

教育方針の実現に向けた5つの目標

1．教育課題を的確に捉える
（1）調和のとれた教育課程
　教科指導と総合的な学習の時間を充実させる
（2）地域に開かれた学校づくり
　学校評議員制度の推進、自己評価の実施、一斉参観日の実施

2．一人ひとりの資質や能力を伸ばす
（1）基本を確実に身につける指導
（2）少人数指導や分かる授業
（3）食育、国際理解教育、環境教育、健康教育

3．「心の教育」の充実
（1）心の通い合う学級経営
（2）心に響く道徳教育
（3）心を耕す読書指導
（4）スクールカウンセラー、心の教室相談員、自立支援指導員の配置、小中学校の連携の強化

4．教員の資質と指導力の向上
（1）教員研修
（2）学校公開研究会など

5．教育環境の整備と充実
（1）児童・生徒の安全確保
（2）特別支援教育
（3）学校施設の整備

11月4日は一斉参観日

日ごろの教育活動の成果を地域の皆さんにご覧いただくため、町内各小・中学校を一般公開します。どなたでも参観できますので、お気軽にお出かけください。

◆日　時　11月4日（日）
　午前8時15分～午後4時
◆問合せ　学務課　☎672-3362

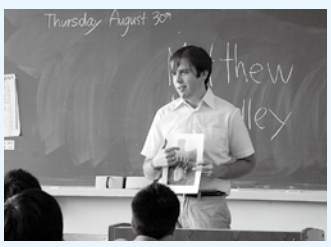
さよなら マルチェック先生
3年の任期が終わり帰国

町長から感謝状を受け取ったマルチェックさん

町の外国語指導助手（ALT）ジョセフ・マルチェックさんは、小中学校での授業のほか、青少年ホームでの英会話教室やバスケットボール、フットサルを通じて町民と積極的に交流してきましたが、7月末に三年の任期を終え、町を後にしました。滞在最終日に町長室で感謝状を受領したマルチェックさんは、「付き合いやすい人たちが多くすばらしい町でした」と名残惜しそうに話していました。

後任のＡＬＴを紹介します

8月から外国語指導助手（ALT）としてアメリカからマシュー・ナンネリさんが着任しました。主に中学校の英語の指導をします。



紫波三中での授業の様子

元気アップ親子セミナー

このセミナーは、保護者が子どもの体力の現状や生活習慣の重要性について、ビデオやハンドブックを通じて認識を深めたり、親子でできる楽しいエクササイズを体験したりする文部科学省の事業です。

●日時　9月29日（土）　午前9時～
●会場　総合体育館
●対象　保育所・幼稚園・小学校の親子
●申込　紫波レクリエーション協会
　☎090-4310-2511
　Fax673-6120

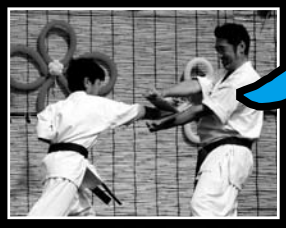
夏まつり

紫波夏まつりは、8月5日、紫波運動公園を会場に、ボランティアスタッフ32人を含む夏まつり実行委員会の運営で盛大に行われました。入場者数は昨年並みの約1万人（商工観光課調べ）。

総合体育館入口前に設営された自由ステージは、午後2時から行われ、踊りや三味線、空手の演武やロックバンドなどさまざまな演目が繰り広げられました。中でも、今年初めて出演した花巻さくら舞虎連によるよさこいソーランは、活気のある踊りで多くの見物客を魅了しました。

午後6時からの踊り大会には、17団体約450人が参加。午後7時過ぎには、歩くのが困難なほどの人出となりました。

午後8時からの花火大会は、始めに佐比内金山太鼓と花火の競演が行われ、イリュージョン花火やローマンキャンドルといった音楽に合わせたコンピューター制御による花火が幻想的な雰囲気を演出、最後の連発花火まで計4500発を30分間で一気に打ち上げられ、終了直後には満席となった野球場内から歓声と拍手がわき起こりました。



会場でお話を伺いしました　interview

（株）芳賀火工　芳賀克司さん
「コンピューター制御で音楽とシンクロさせた花火のウエイブが特徴です。紫波町は会場に恵まれているので、ワイドに広がるイリュージョン花火を野球場方面から平行に見てほしい。大曲や土浦の花火大会で優勝経験もある幻想的な花火を楽しんでください」

紫波町商工会　川村光英さん
「前日の夜市が雨天中止だったので晴れて何より。おいしい良い鳥を仕入れることができたので皆さんに食べてほしい。ジャンボ焼き鳥販売のほかに、輪投げやスーパーボールすくいなど、毎年こういう形で夏まつりを盛り上げています」

夫婦で訪れた桜町在住の高橋さん
「家はすぐ近くですが、音楽と一緒に上げる花火が楽しみで、野球場まで来ました」

浴衣姿の高校生
「花火が楽しみで星山地区から同級生五人で来ました。音楽と一緒に上げた花火が去年より良かったです」

公民連携で日詰西開発その可能性は？

東洋大学が調査結果を報告

ＪＲ紫波中央駅前の公共公益用地を公民連携（ＰＰＰ）の手法により有効活用できるかどうかの可能性調査報告会を八月十二日にナックスホールで開催しました。

この報告会は、本年四月に学校法人東洋大学との協定に基づき、同大学院公民連携専攻の教員と社会人の院生が四カ月にわたって調査を実施したものです。

会場には二百五十人が訪れ、予定時間を大幅に上回るほど熱心に意見が交換されました。それでは、報告会の様子をお伝えします。

調査報告書の内容説明

同大学院生４人とサム・田渕客員教授が、調査報告書の内容について次の項目に沿って説明しました。

- 「町の現状と課題」
  東洋大学大学院生　岡崎正信
- 「町の30年計画」
  同大学院生　三輪恭之
- 「紫波中央駅前開発構想と戦略」
  同大学院生　山地将人
- 「紫波町PPPプロジェクトの仕組み」
  同大学院生　遠藤健
- 「計画実行の進め方」
  同大学院　サム・田渕客員教授

（詳しい内容は、次ページ以降の折り込み別冊「紫波町PPP可能性調査報告書《概要版》」をご覧ください）

説明する田渕客員教授（左）と会場の様子（上）

紫波町PPP可能性調査報告書《概要版》

提出された89ページの報告書を町が4ページに集約

第1章 研究の目的

今年三月、東洋大学大学院は、町から、紫波中央駅前公共公益用地（以下、計画用地）10・7ヘクタールにおいて、PPP（公民連携）の手法を用いた公共施設整備と民間施設立地による経済開発の可能性調査を依頼されました。

具体的には、次の三つの公共施設（以下、三公舎）を計画用地に移転、新設する可能性について調査を依頼されたものです。

①役場庁舎
老朽化、駐車場が狭い

②図書館
住民ニーズが高い

③給食センター
老朽化、学校給食に加え老人や保育児童への配食を行うなど複合的に活用できないか検討

この研究は、長期的な経済開発の原動力になるよう、民の開発を募りつつ、最小限の財政負担で三公舎を整備できる可能性の検討を目的としています。

第2章 町の現状と課題

町の財政規模は、十七年度決算の一般会計の歳出は一二三億六千七百万円（特別会計及び水道企業会計を含むと二二九億一千万円）ですが、十八年度末の町債（未償還元金）は三二一億二千四百万円でした。十七年度の実質公債費比率は20・3％で県内ワースト四位、町債の発行額や債務負担額の適切なコントロールが必須です。

町の素材を産業でみると、第一次産業は東北有数の農作物に恵まれている一方、第二次産業は一人あたりの（注）粗付加価値額が低く、第三次産業も売り上げ、雇用数とも減少しています。

計画用地の経緯は、平成十年二月公共公益施設を一体的に整備することを盛り込んだ「日詰西地区土地利用基本計画」を策定し、同年七月に紫波中央駅前10・7ヘクタールの土地を県住宅供給公社から公共用地先行取得債を活用して二十八億五千万円で取得しています。このとき発行した町債の未償還金は、約十二億八千九百万円（十八年度末）あります。

以上のことから、県下でも厳しい状況にある町の財政事情の中で、今後も必要な行政サービスを維持していくためには、財源確保のための新しい手法が必要であり、PPPはその有力な手法のひとつと考えられています。

（注）粗付加価値額：生産活動によって新たに付け加えられた価値

第3章 町の三十年計画

計画の位置づけ

計画用地は、全ての町民の共有財産であり、この開発に求められているのは、単に三公舎を移転し再整備するだけでなく、町全体の持続的発展と経済活性化の起爆剤として、地域資源とも連動した収益性の高い開発とすることが期待されています。

また、現在、日詰商店街地域にある役場庁舎を計画用地開発地区に移転することが前提であることから、中心市街地全体の再構築と連動して考える必要があり、そのための長期計画が、「紫波町三十年計画」です。

■紫波町の30年計画

報告会では大学院生も説明

未来にわたって人、素材、文化、資金が〝循環〟するまちづくり

「紫波らしさ」と「紫波の強み」を認識し、風景と素材を生かしつつ付加価値をつけて商品化し、資源の循環を図る経済開発の方向として次の五項目が考えられます。

①農作物を中心とする基幹産業の組織化とブランド化
・既存産業の組織化とブランド化
・町の風景と資源をベースとした観光開発
②近隣都市経済開発・工業への支援産業
・北上の工業、矢巾の医療、盛岡のサービス業への支援産業の確立
③スポーツの振興
・自転車のまちとしての大会と合宿誘致、イメージPR
・命名権獲得など企業協賛
④環境・循環型社会形成と生活環境向上
・非化石燃料を用いる新産業の創出と車を使わない日などの取り組み
・「循環型社会」が町の象徴であることをアピール
・「子育て環境No1のまち」として日本全国で有名にし、子育て世代にアピール
・首都圏自治体との連携、提携と二地域居住の推進
・災害対策拠点機能の充実
・コンテンツ産業・スクール産業の導入・誘致
⑤新しい「紫波独自の環境産業」おこし
・町の「未来産業研究センター(仮称)」による産業育成

既存役場庁舎を核とした中心市街地の再構築

役場が計画用地に移転することにより、日詰商店街周辺地域については旧役場の活用を図り、地域の再構築を検討していく必要があります。
・高齢者を対象としたコミュニティ商業の確立
・既存役場庁舎の活用　〝町の公民館〟としての性格を持たせ、町民が気軽に訪れやすい施設とする。
・周辺町有地の活用によるまちなか居住の推進

町から大学院に通う岡崎さんの説明

紫波PPP公社構想

実行組織「紫波PPP公社」を主体としたまちづくり

①PPPによるまちづくりの核としての「紫波PPP公社」

町民の参画や協働によるまちづくりだけでなく、民間企業の活力や創意工夫そして資金を最大限に活用する。町と町民そして民間企業が連携してPPPを主体としたまちづくりを進めていくことが必要であり、町全体の持続的発展のために働く組織として、「紫波PPP公社(仮称)」(以下「仮称」を省略)の設立を提案します。

②「紫波PPP公社」の役割

・三十年計画で土地利用・都市計画をコントロールし、町全体の経済開発を促進する。
・計画用地以外にも土地を準備。事業推進にかかる住民との合意形成を行う。
・経済・都市開発の許認可権の統制、民への優遇措置の調整支援、民間企業や住民と行政機関との橋渡し。
・紫波中央駅前を「PPP推進地域」とし、開発地および周辺地域から得られる税収の再投資にかかる調整を行う。
・紫波中央駅前開発推進機能　計画用地の開発促進の母体となり、用地のコントロールを行う。
・開発にかかる公募、事業者選定などの手続きを担い、開業後の地域のマネジメントを総合的に行う。

③「紫波PPP公社」の組織化

本研究の成果を検証し、住民の合意形成を図り、町や町議会による意思決定を経て、本年度中に「紫波PPP公社」を設立することが必要です。
・所長にはPPPを十分に理解し制度手法に精通した人材を登用
・事業の進展に対応した人材、資金の投入

第4章 紫波中央駅前開発構想と戦略

計画用地は、美しい景観と優れた利便性を有しており、この地を中心に半径三〇キロにおける居住人口は約六十万人を数えています。

PPPによる開発において、三つの施設のおおよその延べ床面積を、役場庁舎が約三四五〇平方メートル、図書館が約二〇〇〇平方メートル、給食センターが

八二〇平方メートルと仮定すると、相当の面積が残ります。

前述の三十年計画を具現化するために、素材、人、文化が循環する開発、「循環するまち」を掲げた当地でしか享受できない紫波らしい開発を行うことを提案します。

紫波ＰＰＰ公社が発出する募集要項（ＲＦＰ）は、民間提案の自由度を確保し、町民の声を踏まえながら、事業者が魅力を感じ応募しやすい条件設定が大切なので、事業者、投資家の立場からの種々の分析を事前に行うことが不可欠で、そのうえで、官・民・住民の役割分担を明確にすることが必要です。

公共施設整備について

次の施設は、大学院公民連携専攻として、ＰＰＰ的な発想に沿った研究に基づき、現段階で最も望ましいと考えるアイデアですが、実際の事業の内容は、最終的には民間事業者の提案によって定まることとなります。

・役場の会議室は図書館に併設された集会室を利用する

・町議会場は年五十日間しか利用しないことから、併設のホテルに多目的ホールを設置し、町議会はそのホールで行う。給食センターは、食を通じた教育機会を提供することと解釈すれば、ホテルの厨房で調理した昼食を町が購入し配膳するということも考えられる。ホテルに委託するなどの効率化が図れない場合には、一等地と思われる計画用地に給食センターを整備するメリットは少ない。

・建設コストの圧縮、あるいは効率的な運営のため、ホテルと庁舎、オフィスと図書館のように一体的な施設として整備することも考えられ、また、役場を一階、会議・議場を二階に整備し、上階をホテルの客室とするようなアイデアもありえます。

民間の収益事業について

収益事業としては、住宅、ホテル、商業施設等が考えられます。

住宅

駅前という利便性から戸建住宅の需要は十分あります。商業施設が整備された場合の利便性を考えると、集合住宅の需要も調査・検討する価値があります。アヴニール紫波でも戸建住宅を分譲中であることから、集合住宅などの異なる客層をターゲットとした住宅形態の提案を誘導する内容とする必要も考えられます。

紫波中央駅前公共公益用地とアヴニール紫波の住宅

商業施設

既存商店街との競合を避け、盛岡市近郊や花北地域までを商圏として導入すべきです。観光地である盛岡と花巻の中間の当町は、周遊型旅行の受け皿となる可能性もあります。産直センター、町の特産物を販売する店舗、地産地消のレストランなど〝町の資源〟を生かした展開が必要です。もち米、日本酒、紫波牛、西洋なし、ぶどうなど特産品は既に豊富にあり、特産品に付加価値を高める取り組みが求められます。食品製造工場や酒造工場に見学、飲食、体験等の施設を併設することで、集客力を上げている事例もあります。消費の場だけでなく、雇用や産業を生む場として整備することは意義深いと考えられます。

町をＰＲすることは、地域間競争に打ち勝つためにも必要であり、当地区を「紫波ブランド」の発信基地として機能させていくことを提案します。

ホテル

盛岡市と北上市のほぼ真ん中に位置する当地区は、増加する出張族の宿泊先としては魅力的な土地です。町内の既存ホテルの稼働率が良い理由として、駐車場が無料、車の出し入れが容易、二食付で六千円以内と格安で宿泊できることです。今後は、紫波というまちが発信する〝循環〟というメッセージに共鳴し、当町を訪れてビジネスや観光を行う人たちをターゲットとすることも必要です。

以上の施設を整備する際に、景観・環境デザインは計画用地の不動産価値を高めるために極めて重要であり、優れた街並みの形成及び環境・循環型のまちづくりを行っていくことが必要です。

大枠のデザインの考え方については募集要項に開示し、詳細は事業者と紫波ＰＰＰ公社が協議し決定します。永続的に街並みの統制を図るためには、景観条例、地区計画等の法制度、建築協定、まちづくり協定、デザインガイドラインなどにより、規制・誘導することが必要です。

段階的事業戦略

開発を一気に行うことは困難であると考えられるため、まちの方向性を示すシンボル的な建物を先行的に建設し、段階的に開発に期待感をもたせることが重要です。全計画を、一事業者にて行う場合、民間事業者が戦略を立てますが、紫波ＰＰＰ公社が当開発地区の価値をどのように高めるか戦略を考え、段階的に募集をかけていくことも考えられます。

駅に近接する用地については、開発が進むにつれて価値が上がることが想定されることから、紫波ＰＰＰ公社が最終段階まで確保しておくことも考えられます。

イメージ戦略、ＰＲ戦略

民間事業者を当開発に呼び込み、さらに土地の価値を高めるためにはイメージ戦略及びＰＲ戦略が極めて重要です。

地産地消、特産品の普及、美しい風景の継承などをキーワードとした「町の良さ」を初期段階から外部に伝達し、「紫波ブランド」を作っていく必要があります。

第5章 紫波町ＰＰＰプロジェクトの仕組み

「資金が〝循環〟するまち、紫波」の実現に向けて

これまでの公共施設整備は、主に町の借金により実施されてきましたが、町の財政状況は厳しいため、新たな地方債を発行して公共施設整備に向けた資金調達を行うことは、非常に難しい状況です。

そこで『民間の資金や創意工夫を活用しながら、町の財政に極力負担をかけない形で施設整備を行う』という発想に沿った資金調達の手法を考えます。

整備資金を確保するためには

①土地の一部を売却し、その代金を整備資金にあてる

②土地の一部を賃貸し、将来の地代をまとめて支払ってもらう

①の利点は、整備資金を早期に確保できる可能性が高い反面、計画用地の全体を管理することが難しくなります。②の利点は、町が計画用地の土地所有権を失わない反面、前払地代のみでは資金が不足します。そこで、新たな財源の確保として、次のパターンが考えられます。

①計画用地における、新築建物分の固定資産税、さらに開発地に転入した住民・法人が納める町民税の一部を見込む

②町が指定する「ＰＰＰ推進地域」からの同税収の一部を見込む

今後の課題は、◎紫波ＰＰＰ公社、町、町民の皆さんと「ふさわしい開発のあり方」について対話を重ねること、◎市場調査による市場性の具体的な検証、◎町がこのプロジェクトに求めるメッセージが民間事業者に正確に伝わるような募集要項の作成などが上げられます。

終わりに

計画用地は町民共通の資産であり、これからの三十年を考え、町民一人ひとりがこの過程に参加し、自らの手で完成させていかなければなりません。町、紫波ＰＰＰ公社、そして選定される民間事業者と作り上げて行くものであり、ゼミのアイデアを参考例として、今後、民間事業者から一層優れた提案がなされ、実行に移されていくことが望ましいと考えています。

ゼミは、このプロジェクトが実現できるものと信じ、紫波ＰＰＰプロジェクトが着実に進むことで、町の未来にわたる循環が達成していけるばかりではなく、「紫波モデル」が確立し、全国各地において地方経済の再生が進むことを祈念いたします。

なお、我々の研究は、公民連携の理論に基づき最適と思われる開発のあり方について検討したものであり、町の要望をそのまま受けて研究を行ったわけではありません。

（東洋大学大学院
田渕ゼミ一同）

町は、町民の皆さんと、開発の基本方針や内容について、住民参加型の意見交換を繰り返し実施し、共通認識を得られるよう行ってまいります。

意見交換会

第１部の報告会が終わり、第２部では、根本教授と田渕客員教授の進行で進められ、約60人の町民の皆さんと意見が交わされました。

Q　役場と商店街、夜の盛り場は表裏一体という見地から役場は現在の場所がいい。

A　商店街は官公庁に頼ったやり方では生き残れない。自分たちがどれだけ一生懸命にまちづくりをするかが大切なこと。競争力が必要で、一つひとつの商店がどうやって生き残るかを考えなければなりません。

Q　盛岡市や矢巾町との合併をどう考えているか。

A　地域間競争はブランド価値が大事で、大きければいいという時代ではありません。

Q　北上市のように企業誘致を活発にしてはどうか。

A　北上市の工業団地は40年の歴史があり、今から真似はできない。競争力を生かすには紫波らしい環境産業や食品加工などの分野がふさわしい。

Q　民間が倒産したときのことを考えていますか。

A　倒産しない事業の選択が必要です。失敗の確率を減らす知恵を絞るしかないです。このことから開発予定地の売却はお勧めできません。

Q　これから東洋大学はどうかかわっていくのか。

A　協定は３年間ですので、これで終わりではなく、今後も積極的にかかわっていきます。

Q　30年計画は長すぎるのでは。

A　５年間でまちづくりは無理です。北上市の工業団地は40年かかっていますし、30年くらいは必要です。

藤原町長に報告書を手渡す東洋大学の塚本理事長（左）

現時点での町の考え

大学側の説明を受け、町の八重嶋雄光経営支援部長が、今後の方針を次のように発表しました。

- 町民との対話、民間事業者との対話をベースに進めます。
- 民間企業を選択する役目を担う組織（町民と町の中間的立場）を設置します（10月頃）
- 市場性、将来性、妥当性など、多くの視点での検証が必要となりますので、現時点で予想される作業は次のとおりです。

1　各地区で説明会を開催
2　可能性調査の冊子を作成（ホームページや公民館で閲覧可能）
3　定期的に町民の皆さんと意見交換できる場所を設置
4　事業の進み具合が分かるホームページの立ち上げ（11月）
5　企業対象のシンポジウム（情報発信）
6　事業行動計画の作成
7　整備条件を設定（事業者へ向けた条件）

ツールド・とうほく 岩手ステージ大会

風をきる。

第十五回三笠宮杯ツールド・とうほくの第二戦が、彦部と佐比内両地区を囲む一般道で開催されました。

連日の真夏日が姿を消した八月十八日、霧雨で路面が滑りやすいコンディションの中、ブドウの香りが漂う一周十三・一キロメートルのコースを、男子高校生八十人、男子高校生オープン二十九人、女子三十人、女子オープン四人の計百四十三人がカラフルなユニホームに身を包み、力強く走り抜けました。

この大会は、秋田県、岩手県、宮城県の三会場で三日間にわたって競技し、それぞれのステージ順位と総合成績を争う全国大会です。

この日、紫波総合高校からも男女十一人が出場し、藤村純平選手が個人七位、藤原志帆選手が女子オープン優勝と活躍しました。

なお、平成五年から開催されてきたこの大会は、今回で終了することが決まっています。

Tour de Tohoku Iwate 2007
second stage

（中）ゴール直前の上り坂を全力で駆け抜ける藤村選手（左から二人目）

（左）優勝者にトロフィーを手渡す藤原町長

（右）霧雨の中、沿道には雨具姿も見られた

年内に当町で開催される大会

●10月20日（土）／第29回岩手県高等学校新人自転車競技大会（トラック競技）／会場：紫波自転車競技場

●10月21日（日）／IBC岩手放送杯兼紫波町長杯第24回県自転車ロードレース選手権大会／第29回岩手県高等学校新人自転車競技大会（ロード競技）／会場：紫波東部周回コース

音楽を通じて心の触れ合い 紫波さぷりがコンサート

7/28

NPO法人紫波さぷり（細川恵子理事長）は、二年目となる「音とふれあいコンサート」をナックスホールで開催しました。紫波総合高校吹奏楽部や佐比内金山太鼓などをはじめとする歌や楽器演奏、ダンスなど五団体が出演。会場には、日ごろ町内外の福祉施設を利用する人や親子連れなど約二百人が訪れました。細川理事長は、「昨年より観客は多く、自分も楽しめました」と笑顔で語りました

紫波総合高校吹奏楽部の皆さん

心と体のシンフォニー 健康トーク&コンサート

7/28

町では、健康維持に大切な心のケアを目的に「健康トーク&コンサート」を野村胡堂・あらえびす記念館で開催しました。申し込みによる百六十人の参加者は、岩手医科大学第三内科心療内科の鈴木順先生によるストレスに対応する内容の講演や、いろいろな楽器を使ったリラックスする音、エレクトーン演奏で心の疲れを癒やしました。参加者の一人は、「自分の所属する団体でも取り組みたい」と感想をもらしていました。

最後に全員で「千の風になって」を合唱

赤石野球スポ少に栄冠 学童軟式野球で県優勝

7/28

赤石野球スポーツ少年団は、第二十五回岩手日報杯三陸海岸学童軟式野球大会兼第十三回マクドナルドカップ県学童大会（参加二十八チーム）で六年ぶり二度目の優勝を果たしました。

投手で最優秀選手賞を受賞した長鈴悠平くんは、「守りの練習が優勝につながった」と勝因を分析。エラーの少ない試合運びがいつしかチームの自信へとつながっていたようです。

決勝が行われた釜石市平田運動公園野球場での集合写真

母が子を思いやる気持ち 大学生が人形劇で表現

8/2

佛教大学児童教化研究部の三人が、水分児童館や虹の保育園、百寿の郷を訪れ、「母親が子どもを思いやる気持ち」をテーマにした人形劇や歌などを披露しました。

講演に協力する称名寺の笹井住職は、「三十年以上の歴史があり、昔はお寺で行っていました」と当時を振り返り、水分児童館で講演を終えた同大学南雄司部長は、「反応が良く、やっていて楽しかった」と感想を述べてくれました。

体を大きく使う振り付きの歌が子どもたちに好評

早稲田大学から感謝状
自転車合宿の受け入れ20年

8/3

当町は、早稲田大学オープン教育センターが行う自転車授業の合宿地として二十年間受け入れており、同大学創立百二十五周年を迎えるにあたり、白井克彦総長より感謝状が贈られました。

当町での自転車合宿は、農村風景や受け入れ体制の良さから人気があり、今年も抽選で競技自転車の経験がない二十五人が、八月二日から六日間、バンク練習などの授業が行われていました。

早稲田大学オープン教育センター井上主任が感謝状を贈呈

輪投げと焼き肉で交流
水分で防犯お楽しみ会

8/8

水分地区の防犯協会と小中学校育成会が、小中学生を対象に防犯お楽しみ会を開催しました。始めに西部駐在所佐々木巡査長から、危険のない夏休みの過ごし方について講話があり、子どもたち四十一人と役員ら十五人が輪投げ大会や焼き肉会で交流を深めました。

同防犯協会の菊池隆志会長は、「四十年以上前から続いている。子どもたちの非行防止につなげたい」と語りました。

輪投げを通じて交流する水分地区の小中学生

総勢200人による太鼓演奏
佐比内が一つになる「金山祭」

8/14

第十九回佐比内金山祭は、気温三十六度を超す記録的な猛暑の中で、佐比内小学校を会場に開催。結成二十周年を迎えた今年は、昨年より多い約五百人の見物客が訪れ、幼年、小学、中学、シルバー、親子、若衆といった各年代の演奏を楽しみました。会場内は、地元住民による出店が立ち並びお祭り気分一色。家族四人で訪れた佐々木くに子さんは、「孫の演奏を楽しみに来ました」と目を細めていました。

小学低学年によるぶちあわせ太鼓

地域の力で応急活動
彦部地区で総合防災訓練

8/26

大規模な地震を想定しての総合防災訓練が、彦部小学校で地元の住民や企業、自衛隊や医師会など二十九団体約五百人により行われました。

訓練は、身近にある機材を利用しての救助や、応急トイレの設置など、地域の力でできる活動から、通信や食料と飲料水の確保、建物の危険度判定など専門の援助が必要な活動まで、四十六項目にわたって行われました。

倒壊家屋から負傷者を救出する訓練の様子

環のくに 紫波

記録的な猛暑が続いたこの夏、町ではさまざまな環境に関する取り組みが行われました。

エアコンに頼らない 絵本作家とうちわ作り

日詰十八・十九区の子ども会（長谷川千明代表）は、はり絵うちわづくりを行い、完成したうちわの一部を紫波みらい研究所内に約一週間展示しました。

このうちわは、六月二十四日に同行政区の小学生四十四人とその家族が、東京都在住の絵本作家磯真理子さんと貼り絵作家渡辺順子さんの指導のもと、和紙を切り、白地のうちわに張り付けて作りました。

出来栄えに満足そうな子どもたち

石ヶ森里山づくりプロジェクト

八月三日・四日の両日、國學院大学の学生、卒業生四十七人と、地元住民、ＮＰＯなど約七十人が、彦部地区の石ヶ森で間伐作業を行いました。

このプロジェクトは、町の循環型まちづくりに興味を持った國學院大学の教授と学生らが、平成十六年に町を訪れ間伐作業を体験したのが始まりで、今年で四年目になりました。

初日は猛暑、二日目はあいにくの雨と過酷な条件ながらも協力し合いながら作業を成し遂げました。終了後には、地元住民から「森が明るくなった」と感激の声が聞かれました。

地元住民と協力して作業する学生

遊んで学ぶ こども夏エコ祭

食品トレーを使った「パタパタスイミング」

町では、紫波夏まつりが行われた八月五日、同じ総合運動公園内で、こども夏エコ祭を開催しました。ＮＰＯ法人紫波みらい研究所や環境マイスター紫波、紫波レクリエーション協会などが参画し、昨年に続いて二回目の開催となりました。

会場の陸上競技場入口付近には親子連れや夏休み中の子どもたちが延べ三百人集まり一日中にぎわいをみせてました。うちわや星座早見盤などを手作りするコーナー、印刷会社で不要となった端紙を利用したお絵かき教室と紙工作コーナー、使用済み油を利用したコネコネ石けん作りなど、環境に配慮したさまざまな遊びを体験していました。

先人の知恵 「ふろしき」

町では（財）あしたの日本を創る協会などの主催による「レジ袋減らし隊」を推進しています。そこで、昔から使われてきた「ふろしき」を使ってみてはいかがでしょうか。

最近の「ふろしき」は、包み方を紹介したものや、洋風に彩られたものなど、さまざまなデザインのものが売られています。小さく折りたためば携帯性にも優れ、使ってみるとその便利さにあらためて気付かされます。皆さんも「ふろしき」を利用してみませんか。

子どもと睡眠

夜型の生活習慣が増えている現在、子どもと睡眠の関係についてあらためて考えてみませんか。

幼児期には、脳や身体の発育に必要な成長ホルモンが寝ている間に分泌させます。この時期に充分な睡眠がとれないと健やかな成長に大きな影響を及ぼします。

子どもの睡眠時間を親の生活習慣に合せていませんか

子どもにとっての正しい睡眠時間帯は、午後８時から午前６時までの10時間と言われています。同じ睡眠時間でも夜が遅いなど不規則では意味がなく、良い睡眠の習慣を付けるためにも、できるだけ同じ時間に寝かせ、同じ時間に起こすという基本的なリズムを作ることが大切です。子どもは、自然に規則的な習慣が身に付くものではないので、親が良い睡眠時間を習慣付けることが必要です。

規則正しいリズムは朝食が大切

しっかり朝食を食べ、脳の覚せいリズムを高めましょう。特にタンパク質を多く含んだバランスの良い朝食は、頭脳の活性化につながります。

町の子どもたちの実態

平成18年度の３歳健診の結果、○半数が夜9時に寝て、朝7時に起きています。○夜11時以降に寝ている3歳児も2.1%います。

就寝時間		起床時間	
午後8時	11.3%	午前6時	29.7%
9時	52.7%	7時	50.2%
10時	20.1%	8時	4.9%
11時	2.1%	9時	1.1%
その他	13.8%	その他	14.1%

「寝る子は育つ」子どもに睡眠は重要

それぞれの生活リズムは違いますが、子どもと睡眠の大切さを再認識し、皆さんのご家庭でも規則正しい生活を送られるように心がけたいものです。

問合せ　長寿健康課　健康推進室　☎672-4522　有線01-8991

食は、元気はつらつの源　～地元でとれる旬の食材を食べましょう～

町の栄養士がお伝えします

健康レシピ

「みょうが御飯」

夏から秋にかけて旬のみょうが。

栄養価は高くありませんが、独特の味と爽やかな香りが食欲を高める野菜です。

この香り成分は消化の促進、血液の流れを良くし、また辛味成分は熱を冷ますので夏ばてに効果があります。薬味や酢漬け、また、青じそと一緒にご飯に混ぜるとさっぱり味のみょうが御飯になります。

【材料（4人分）】
米…2カップ、　みょうが…2個、　青じそ…2枚、酢または甘酢

【作り方】
みょうがは半分の厚さに切り、熱湯にさっと通して、すぐに酢または甘酢に漬け（しばらくするとピンク色に変わる）、斜めせん切りにします。青じそはせん切りに。炊き上がったご飯にみょうがと青じそを混ぜて出来上がり。

料理のポイント　みょうがを漬けた甘酢は、ご飯に混ぜたり、和え物に利用したりできます。

体重が気になる人に ☆ダイエットセミナー☆

町では、体重が気になっている人を対象に『ダイエットセミナー』を開催します。希望する人はお申し込みの上、ご参加ください。教室の内容は、血液検査、体力測定、講義、運動・栄養指導、運動実技などで、9月下旬～翌年3月まで、月１、2回行います。

◇**対　　象**　年齢35歳～69歳
健康診断の結果(病院のものでも可)、BMI(肥満度)の数値が27以上35未満で運動が禁忌でない人。月1、2回の教室にできるだけ継続して参加できる人

◇**年内日程（予定）**　9月下旬　血液検査
開催日：10月１日(月)・15日(月)・29日(月)
11月12日(月)・26日(月)
12月10日(月)・21日(金)
開催時間：午後１時15分～３時30分

◇**申　　込**　９月19日(水)まで（先着30人）

◇**問 合 せ**　長寿健康課　☎672-4522

第6回 であい ふれあい めぐりあい

「素敵な時を、ときめきを」あなただけのベストパートナーを見つけませんか。

◇**日　時**　9月30日(日)　午後3～7時

◇**会　場**　ラ・フランス温泉館「交流館」

◇**定　員**　男女各30人

◇**対　象**　結婚を希望する独身男女

◇**参加料**　2500円(飲食代込み)

◇**申　込**　専用申込書に記入し、直接、郵送、FAX

◇**問合せ**　紫波町商工会女性部　☎672-2244
FAX672-2316　(平日午後5時まで)

町再発見ツアー

坂上田村麻呂は、町に数々の神社を勧請しました。町が誕生の地という伝説も残っており、その軌跡をたどってみます。

◇**日　時**　10月13日(土)
午前８時40分紫波中央駅集合

◇**費　用**　3,500円

◇**コース**　紫波中央駅－岩谷観世音－赤沢民俗資料館－薬師堂－正音寺－赤沢産直－坂上田村麻呂誕生伝説の地－八坂神社－平井邸(昼食)－志賀理和気神社－新山神社－蜂神社－紫波中央駅(午後４時)

◇**申込・問合せ**　9月26日(水)　まで
しゃ･べーる代表 久慈　☎672-2718　FAX672-4555

『紫波の食ナビ』をリニューアル

http://www.made-in-shiwa-agri.jp

町ではインターネットを通じて食と農の情報発信サイト『紫波の食ナビ』を開設しています。親しみやすい、わかりやすいをモットーに内容を一新しました。町内産直の旬の情報、地元の食材を使ったレシピや循環型まちづくりの取り組み、紫波の風景などを紹介します。

◇**問合せ**　農林課　農業振興室　☎672-6874

こっこファミリー交流会

極低出生体重児を持つ家族の交流会です。参加無料。

◇**日　時**　10月15日(月)　午後１時30分～

◇**会　場**　盛岡地区合同庁舎７階　7-2会議室

◇**対　象**　平成17年11月以降に1500ｇ未満で出生したお子さんを持つ家族

◇**内　容**　講話「低出生体重児の成長と発達」
講師　岩手医科大学付属病院小児科　葛西健郎先生

◇**申込・問合せ**　10月１日(月)まで
盛岡保健所　健康福祉課
健康・母子保健チーム　☎629-6569

母子家庭等特別(法律)相談

離婚に伴う養育費等の問題について弁護士による法律相談を行います。

◇**日　時**　9月23日(日)　午前10時～午後3時

◇**場　所**　岩手県福祉総合相談センター　相談室

◇**対　象**　母子家庭の母、寡婦及び父子家庭の父

◇**費　用**　無料

◇**申込先**　(社)岩手県母子寡婦福祉協会　☎623-8539

母子家庭のための自立支援セミナー

一人で悩んでいるお母さんのためのセミナーです。

◇**日　　時**　9月29日(土)　午後1時30分～ 3時

◇**申込期間**　9月18日(火)～ 25日(火)

◇**内　　容**　講演　弁護士石橋乙秀先生「離婚後の法律問題と契約社会」　講演後、岩手県母子寡婦福祉協会による個人の就業相談、生活相談を受付。

◇**申 込 先**　(社)岩手県母子寡婦福祉協会　☎623-8539

※託児を用意しますので同時にお申し込みください。

●分譲価格(土地･建物)　1,713万円
●所在　紫波中央駅前一丁目1-42
●土地面積　283.23㎡(85.67坪)
●建物延床面積　154.81㎡(46.83坪)

9月20日(木)～26日(水)
午前10時～午後4時
(期間中は同住宅を公開しています)

秋の全国交通安全運動　期間9月21日(金)～30日(日)
●高齢者を交通事故から守る　●飲酒運転の追放
●ライトの早め点灯　●後部座席もシートベルト

えこ3堆肥の販売

えこ3センターでは、牛ふんともみ殻・稲わらなどを、紫波の土着菌を用いて完熟発酵させた「紫あ波せみらい堆肥」を販売。通気性や保水性が高まる土の団粒化など土壌改良剤効果や、有機物の分解による肥料成分の緩やかな放出などの効果が期待できます。

◇価　　格　牛ふん堆肥　1袋（40ﾘｯﾄﾙ 12kg）350円

※副資材にもみ殻を使用しているため、軽い仕上り。お得なバラ堆肥（4,000円/ﾄﾝ）、より肥効性の高い豚ふんや鶏ふんを完熟発酵させた堆肥も販売しています。

◇販売・問合せ　えこ３センター
☎671-7878　FAX671-7877

生ごみ堆肥も販売

盛岡・紫波地区環境施設組合は、家庭の生ごみを発酵させて作った堆肥「田園有機」を販売しています。

◇販売場所　盛岡･紫波地区環境施設組合
◇価　　格　１袋（40ﾘｯﾄﾙ 15kg）350円
10袋以上は希望により配達します。
◇販売・問合せ　盛岡･紫波地区環境施設組合
☎697-3835

「燃やせるごみ」の処理手数料が変わります

盛岡・紫波地区環境施設組合清掃センターにごみを直接持ち込んで処理を依頼した場合、昨年10月から全種類のごみに手数料が必要となっております。このうち「燃やせるごみ」の処理手数料が、10月1日以降、次のように変わりますのでお知らせします。

現行	改定後		
平成19年 9月30日まで	平成19年 10月1日～ 平成20年 9月30日	平成20年 10月1日～ 平成21年 9月30日	平成21年 10月1日～
10キログラム につき73.5円	10キログラム につき84円	10キログラム につき94.5円	10キログラム につき105円

◇問合せ　盛岡･紫波地区環境施設組合　☎697-3835

無料登記相談会

司法書士会盛岡支部による登記に関する相談会です。

◇日　時　10月1日（月）午前10時～午後3時
◇会　場　旧郡役所（役場庁舎裏）
◇問合せ　県土地家屋調査士会盛岡支部　☎692-5122

精神保健相談

町では、「心の病気」で悩んでいる人や家族を対象に、専門医師による相談を開催します。相談を希望する人は、お申し込みの上、気軽にお出かけください。

《症状の例》イライラする／眠れない／物忘れがひどい／お酒を飲んで人に迷惑をかける／家の中に閉じこもり外に出ない／すぐ怒り暴力を振るう／何もする気になれず一日ボーッとしている／意味の分からないありえない話をしている

◇日　　時　９月20日（木）午後１時～２時30分
◇会　　場　総合福祉センター
◇相談医師　平和台病院院長　伴亨先生
◇申込・問合せ　福祉課　福祉推進室　☎672-2111
内線1522　有線01-8921

紫波の恵みと自醸ワインのタベ「自醸夜会」

発売2年目の紫波自醸ワインを町外で初めて販売。町産の旬の素材のお料理と一緒にお楽しみください。

◇日　時　9月21日（金）午後6時30分～午後8時30分
◇会　場　盛岡グランドホテル
◇無料送迎バス　※バスの利用には申し込みが必要
●紫波発＝道の駅紫波（午後5時30分）－紫波中央駅（午後5時45分）－グランドホテル
●盛岡発＝盛岡駅西口（午後5時40分）－県民会館（午後6時）－グランドホテル
◇前売り券　6,000円
◇前売り券取扱場所　紫波フルーツパーク／紫あ波せ本舗／盛岡グランドホテル／盛岡グランドホテルアネックス
◇問合せ　紫波フルーツパーク　☎676-5301

税務署からのお知らせ 税務相談の体制が変わります

国税に関するご相談は、今後、「電話相談センター」でお答えします。

10月31日（水）まで　→　☎652-0606
11月１日（木）から　→　☎622-6141

いつでも手軽に税情報を入手できる「国税庁ホームページ」もご利用ください。→　www.nta.go.jp

なお、面接による相談を希望する人は、あらかじめ税務署に相談の日時を予約し、関係書類を持って、税務署担当部署へお出かけください。

◇問合せ　盛岡税務署　☎上記参照

アヴニール紫波展示場の売却

◇問合せ　岩手県住宅供給公社
営業二課 ☎652-2220　土木課 ☎672-2111 内線5141

いわて環境共生モデル住宅『地熱利用の家』を売却します。この住宅は、地熱ヒートポンプ、太陽光発電、高断熱設計、シックハウス対策など、資源を有効活用し環境に配慮した造りです。

秋の味覚を
たのしいイベントとともに
お楽しみください。

会場案内マップ

9/23㊐ 紫波フルーツの里まつり 2007

もちまき大会
全会場一斉 午後2時～

水分会場

MAP 1 **あづまね産直センター ラ・フランス温泉館**
☎673-8555　駐車場で開催

★もちつきと試食[午前11時]
★もちまき[午後2時]
★ビンゴゲーム[午後3時]

県道盛岡和賀線 志和会場

MAP 2 **産直あぐり志和**
☎673-7684

★南部小麦ひっつみ振る舞い
100食限定[午前11時]
★地元高校生バンド演奏
[午後1時]
★もちまき(景品当たりくじ付き)
[午後2時]

国道396号 長岡会場

MAP 5 **ルート396長岡**
☎672-5031

★もちまき[午後2時]
★りんご・ぶどう無料サービス
(先着400人)
★商品券発行
(お買い上げ2,000円以上)

国道456号 大巻会場

MAP 7 **産直センター大巻**
☎672-1144

★「もち」の試食[午前10時・正午]
★もちまき[午後2時]
★大抽選会
レシートによる抽選会
★ブドウ、リンゴジュースの
お振る舞い

紫波中央駅 日詰会場

MAP 3 **紫あ波せ本舗**
☎672-6900

★もちまき(景品当たりくじ付き)
[午後2時]
★ポイントカード2倍
★紫波フルーツパーク産
ぶどう量り売り
★紫波自醸ワイン試飲販売

道の駅紫波 赤沢会場

MAP 6 **産直センターあかさわ**
☎676-5201

レストラン果里ん亭
☎671-1300

★りんご皮むき大会[午前9時半]
★産直バンド[午前10時]
★さんさ踊り[午前10時半]
★ふるまいもち・民謡
[午前11時半]
★もちまき大会[午後2時]
★茶道・お琴演奏[午後2時半]

国道456号 彦部会場

MAP 8 **彦部産直楽々**

★もちまき[午後2時]
★空くじ無し抽選会
★椎茸、カボチャの炭火焼

国道4号 古館会場

MAP 4 **古館産直センター グリーンハウス**
☎672-6699

もちの里小昼ハウス
☎672-6080

★リンゴの皮むき選手権[午前11時]
★もちまき[午後2時]
★100円コーナー ★焼き鳥コーナー
★500円お買い上げ毎に輪投げに挑戦

国道396号 峠の駅 佐比内会場

MAP 9 **紫波ふる里センター**
☎674-2757

★金山太鼓(佐比内保育所年長児)
[午前11時・午後0時半]
★もちまき[午後2時]
★かかしコンクール
★サピナちゃんカードポイント3倍
★宅配料5kgまで一律500円
(東北・関東圏内)
★抽選会(お買い上げ2,000円毎
空くじなし)

ふる里レストラン ぶどうの樹
☎674-2299

★ふるまいもち
[午前10時・午後2時半]
★アイスクリーム50円引き
[午前10時半・午後3時]
★大食大会[正午]